

# 早生樹「ヤナギ」を活用したシイタケ栽培の可能性

利用部 微生物グループ 原田 陽

## 研究の背景・目的

●白糠町をはじめとする釧路町村会や下川町では、木質系のバイオマス資源作物としてヤナギの安定栽培・供給を目指した取組みを行っています。さらに釧路町村会では、エネルギー利用および牛舎における敷料への利用に加えて、ヤナギの利用をさらに進めるため、シイタケ栽培への利用の検討を始めました。

●北海道では最近の約10年間で、シイタケ菌床栽培の急激な普及とともに、シイタケ生産量が急増し、良質な広葉樹おが粉の入手難と値上がり懸念されていることから、良質・安価な代替材料が求められています。

シイタケ菌床栽培にヤナギおが粉を使用した場合の影響を明らかにすることにより、ヤナギの活用可能性を高めることを目的に、釧路町村会との共同研究で取り組んだ成果を紹介します。

## 研究の内容・成果

◆オノエヤナギおよびエゾノキヌヤナギのおが粉を使ってシイタケ栽培試験(約50試験区)を行いました(図1, 2)。

◆シイタケ発生量が増加しました(図3)。

◆商品価値の高いMサイズ以上の大粒で肉厚なシイタケ発生数が増加しました(図2, 3)。

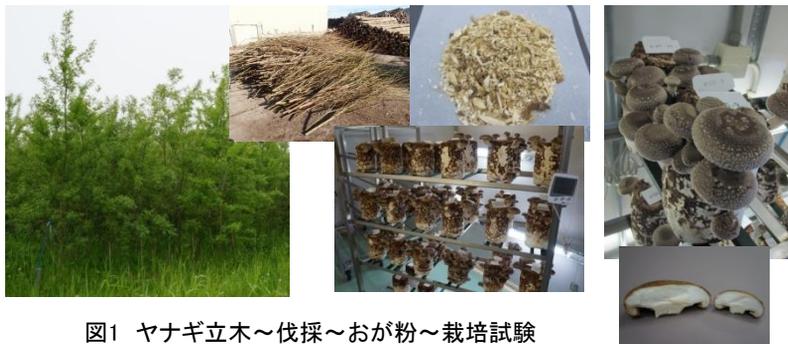


図1 ヤナギ立木～伐採～おが粉～栽培試験

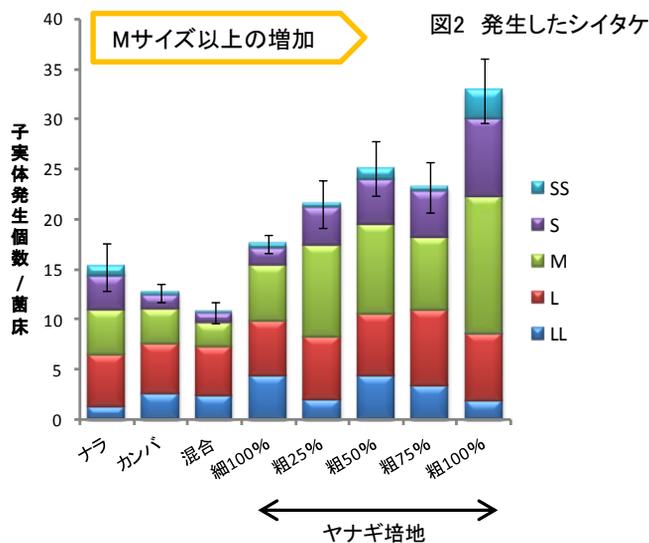
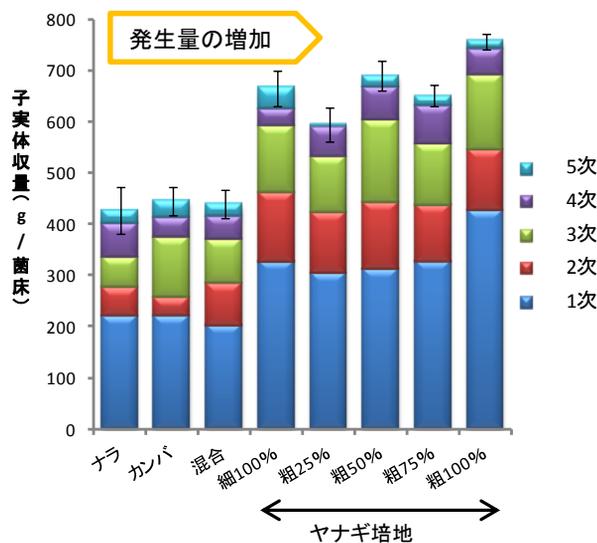


図3 オノエヤナギを用いたシイタケ発生次別収量(左)およびサイズ別個数(右) 平均値±標準誤差(N=10)

## 今後の展開

●道総研の重点研究『早生樹「ヤナギ」を活用した高品質シイタケの安定生産システムの開発』(平成26~28年度)に展開し、地域等と連携して実用化を目指します。

●ヤナギのおが粉をシイタケの菌床栽培に利用することで、大粒かつ肉厚(高品質)なシイタケの発生率が高まる要因やメカニズムの解明に取り組めます。

●高品質なシイタケの安定栽培技術を開発し、早生樹「ヤナギ」のおが粉を活用した高品質な菌床シイタケの安定生産システムの構築を目指します。